

際光って見える星は？…南十字星？星空に音節な団員。あれはスーパーマンか？いや違う、そうだ人工衛星だ。見ることもゆっくりに動いているよ！。3機発見。一時口マンチックな気分になりながら…ところで今何時？ 2時半だよ。エッ！サイハンナムラーライ(お休み)…。

雑感：首都ウランバートルの騒然さ、その表通りでも貧富の差、格差等が、垣間見える。中国、ロシア始め、先進国のほとんどが、モンゴル国の資源等を狙って、草刈場と化している現状を見るに付け、これで良いのかなー。これが民主主義というものか。でも人間の社会なんてそんなものかもしれない。

通訳のエンジニアさんにゴルフ場はあるのかと聞いてみた。モンゴルの国民は土地を傷つけ改造するのを嫌がる国民で、ゴルフ場などは半国民的遊戯とのこと、この精神こそ、地球温暖化、便利になりすぎた社会に一石を投じる精神ではないのか…。

今回の視察は中山モンゴル親善協会会長ほかスタッフの皆様の詳細やかな配慮により、山越団長始め、7名の視察団の団員がそれぞれ思い出を胸に、無事帰国出来ました。本団団長かつたと思えます。モンゴル国のほんの一部ではありませんが、楽しく意義のある視察となりましたことに、感謝いたします。ありがとうございました。

見たことと聞いたこともない砂嵐

山田 和敏
自治労長野県本部

「トール」という音が聞こえる。しかもこちらに近づいてくる。目に飛び込んできたのは、推定5メートル、重さ20kgくらいの赤いカヌーだ。地面を激しく転が



トール川でボート遊び

チンギス・ハーン国際空港 6:45
MIA T モンゴル航空 OM501 便に搭

最終日のハブニング!!

原田 岳志
長野県経営者協会

今回、このような体験・経験をさせていただき関係各位に感謝します。この6日間最高の仲間に出会ってとても楽しかった。モンゴル国のほんの一部を垣間見たが、自然の雄大さ、奥深さは一生忘れません。

しかしその成長の影響による、格差問題、大気汚染、砂漠化等々様々な問題が鬱積している。日本はモンゴルへODAとして多額の援助を行っている。要人の往来も活発であり、両国の関係は非常に良好である。これらの問題に対して両国の協力関係がこれまで以上に強化されていくことを切望する。

ウランバートル

市内観光での体験

原 和博
連合・長野・フード連合長野地区協議会

その1 視察団最後の日は市内観光。

朝はバイキング、その中にヨーグルトがあつて雑菜柄、製造年月日を解説したが、大丈夫かと思つた。

その2 ガンダン寺にて。通勤時間で車

は混み、相変わらずクラクションの音は凄かった。参拝して外に出ると物売りが寄つて来た。誰にでも手当たり次第に押し売りしているようだ。

その3 ホテル横のスカイマーケットで

買い物。外に出る際に買い物物の検査があり、「このチンギスハーンは入れ物が違う。」と止められた。店員がくれた袋に入れてもらったが、ガイドに説明させ事なきを得たが、日本では考えられない。失礼千万！

その4 二次会のバブKHANBRA Uで乾杯。そこにサントク社長の柳澤氏なる人物が登場。部屋を出る際にエンジニアさんの肩をたたいて「頑張れよ」と去つて行った。どうして？突然のことなのでみんな驚いた。

今回、このような体験・経験をさせていただき関係各位に感謝します。この6日間最高の仲間に出会ってとても楽しかった。モンゴル国のほんの一部を垣間見たが、自然の雄大さ、奥深さは一生忘れません。

乗。行きと同じく救命胴衣の説明を受け、さあ出発だということ。機内アナウンスが鳴り響く。「強い追い風のため離陸できません。一度降りてください」とのアナウンス。

空港に戻ると、館内にこたますようなアナウンスは、何を言っているのかさっぱり判らない。正確な情報が得られないまま、ひたすら待つこと6時間。漸く「夜23時搭乗、01時出発と決定」と日本語の話せるスタッフがそれを伝えに来た。もっと早く出てくれれば良いものを…。

22:00再び空港へ。ロビーで正真正銘モンゴル最後の宴会開始。アルヒでトクトーイ(乾杯)ーエンジニアさん、ポルトさんとまたお別れ。二人とも本場にありがとう！

翌朝6:44成田空港到着。空港のスタッフが笑顔で迎えてくれた。モンゴルの空港職員には是非とも見習ってほしい。

長野新幹線乗車。車内で日本のビールで解団式。やっぱり日本のビールが一番。こうして第19次モンゴル産業・文化視察団の旅は終了した。

今回は7名という少人数の視察団であったが、それが逆に団結力を増し非常に思い出に残る旅であった。

7月に入った直後、総選挙の結果に絡む暴動がウランバートルで発生したとのニュースが飛び込んできた。一日も早い政情安定を祈るばかりである。

急速な経済成長を遂げているモンゴル。しかしその成長の影響による、格差問題、大気汚染、砂漠化等々様々な問題が鬱積している。日本はモンゴルへODAとして多額の援助を行っている。要人の往来も活発であり、両国の関係は非常に良好である。これらの問題に対して両国の協力関係がこれまで以上に強化されていくことを切望する。